

事例： 国際医療福祉大学、SCT SmartBA SPSS で医療データを分析・活用

SCT SmartBA SPSS を医療データの分析のご研究にご活用いただいている国際医療福祉大学教授の外山比南子先生にお話を伺いました。

医療データ分析の意義

電子カルテ内にある診療情報やDPCデータを分析して、医療の質や診療内容と診療報酬の関連を調査し、医療の向上に貢献することを目指しています。

DPC というのは診断群分類ともいわれ、厚生労働省が制定した病名と治療内容に基づいた分類のことで、この分類に基づいて1日当たりの診療費が定められ、入院期間の間積算して支払う、日本独自の入院医療費定額支払い制度に使用されています。

この制度は、2003年より特定機能病院において開始され、現在では一般病床の約半数がこの制度を導入しています。

各病院は厚生労働省が定めた様式のDPC調査データ、たとえば患者さんの傷病名、入退院情報、入院期間、重症度、手術、投薬、診療報酬等診療にかかわる情報を提出することが義務付けられています。これらの情報をデータベースに取り込み、分析法の教育や研究、医療の実態調査に活用しています。

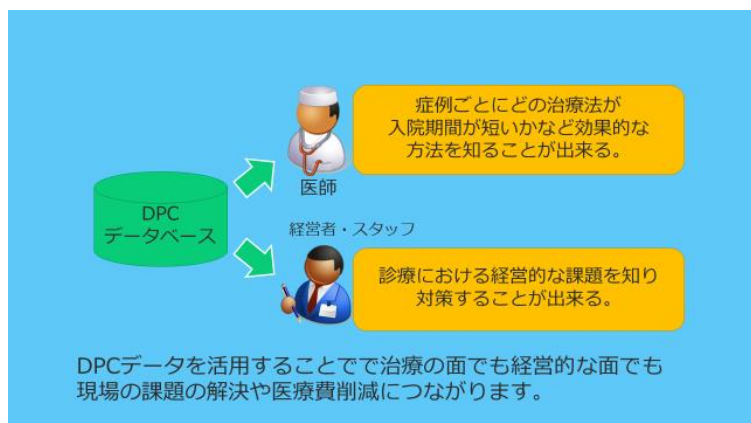


外山比南子先生

お茶の水女子大学・東京工業大学大学院博士課程を修了 理学博士

専門は、診療情報分析・医療情報学・医療情報処理論・医療情報システム

40年以上、医療や福祉情報の分析および利活用のジャンルでご活躍されているプロフェッショナル



DPC 調査データは医療にかなりのインパクトを与えています。ほかの施設と比較可能なデータが作成されていること、診療内容と診療報酬が結びついていること、分析結果を経営に反映できることなどから、分析することに大きな意味がでてきました。

SCT SmartBA SPSS を使い始めたきっかけ

一般に、医療施設では情報システムに付属しているソフトウェアやエクセル、アクセスを使って集計や検索を行って、主に表を作成しています。しかし、医療の内容や制度の変化

に応じて、ソフトを変更していくことが難しくなっています。そこで、汎用的なソフトを使って、いろいろな分析ができる人材を育てることが必要と考えました。

SPSS は操作画面もわかりやすく、直感的に使えるので、大学院の学生や様々な領域の研究者に利用されています。さらに、集計だけでなく統計学的評価を容易に行えることも魅力です。

他にもいくつかのソフトを検討しましたが、一番使いやすく、費用面でも導入しやすかったと思います。

SmartBA SPSS の価値

EXCELやACCESSでは大量データや求める分析の変化に対応しきれない

プログラム開発無しで汎用的な分析が可能

直感的に操作して結果を得ることが出来る

分析結果に対する信頼性が高い

SCT SmartBA SPSS 活用の現状

現在行っている授業は「医療福祉におけるデータサイエンティストを目指す」というもので、その授業で利用しています。

現在、各医療福祉施設では毎日蓄積される診療や介護情報の活用が不十分な状況です。せっかくの貴重なビッグデータですが、活用できる状態で蓄積管理できていないこと、情報分析人材の不足に原因があると思っています。

病院で働く現場の職員の方や、データ活用法を身につけたい方を対象に、データの準備から分析、解釈、改善の提案が出来るデータサイエンティスト養成を目的として授業を行っています。

SPSS を利用して、実際に電子カルテのデータや DPC データを使って具体的な事例について、さまざまな統計手法で分析を実行してもらいます。

そして、データから現状を理解し、問題点を見つけ、目的をもって自分の力で分析をできる人材を育成したいと思っています。

三和コムテックのサポート対応

いつもサポートの担当者の方に確かな技術力で対応していただき、非常に助かっています。問い合わせすると、素早く対応していただけますし、ちょっと見たところソフトの基本機能として対応ができないと思われることを質問した場合でも代替案を出していただける、など対応には満足しています。楽しく仕事させていただいています。